

新刊紹介

教育と内省

文學博士 岡部 爲吉著

本書は故岡部博士の遺著であつて、博士の心血を注がれた論文「公民教育」以下十五編(内、英文一編)を収めてある。英文の一編「信仰の實驗的研究」はコーネル大學に於ける哲學博士の學位請求論文であり、その他はすべて廣島高師より出て居る雜誌「學校教育」に寄稿せられたものであるといふ。そも、教育學を研究するのに、他の科學を基礎とする場合に、歴史的に研究する立場もあり、心理學、社會學を基礎として研究することも出来る。さうしてこれらが皆ともに必須かくべからざる事は言ふまでもない。故博士は心理學に精通された方であつて、アメリカ合衆國やドイツに留學中も主として心理學ならびに實驗教育學を研鑽せられたさうであるから、本書の論文もその方面のものが多く、教育學の心理的研究に於て研究者に種々の指教を遺されたことが多いやうに思はれる。

故博士は才氣横溢せる天才肌の人でなくして、刻苦勉勵して撓ざる熱心なる學者であつたを聞いてゐる。その性格の特色は本書のどの頁を見ても察せられるのであつて、論述の仕方が常に精細緻密を極め、一の命題について言へば、必ずその逆も裏をも併せ論じ少しの疑難をも等閑に附せざらんとする態度である。従つて

歐米の新思想を紹介するにも一二もなく、それに没頭せず、よくその長所短所を考へて、我が國の歴史習慣に照し合はせ、我が長を益く良くし、我が短を補ふやうに努めて居られる。

また故博士は今まで諸學者が研究したことを網羅し統一して、之を巧妙に綜合して一の體系にまざる人ではなかつた、かゝることを好まなかつたが、述べる所は凡で體驗に發し、體驗から出たものを重苦しさうに、ホツリ／＼と説く人であつた。その説述はすべて氏獨特の世界から生れたものである。だからその説明に力がある。熱がこもつてゐる。讀者に深い暗示を與へ、深い信念を植附ける。唯惜しいことには、行文の間に説述の流暢をかき晦澁離解で、たやすく意味をつかみ難い所が間々あるのは止むを得ない。

私の最も興味を持つて讀んだのは「實在意識と教育」の一篇であつた。繪に見た餅と昨日食つた餅とは、今日よりすれば等しく餅の表象として我等の心中に存して居るが、一方は實在意識を伴ない、他は實在意識を伴はないから、等しく餅の表象であるけれども、その價值に到つては大差がある。西洋人が日本の武士道をさうしても理解できないのは、西洋人と日本人と實在意識がこの場合全く違つてゐるためである。教師が教授し訓練する時に、その教育材料について實在意識を持つて居なければ、その教育にどうしても力が湧かない。生徒に徹底すること少く、生徒も感激することが薄いといふのである。この論文の趣旨は故博士の研究上はた又學生指導上の信念であり、本書の全論文の基調をなしてゐ

るもので有らうと思はれる。

尙本書には附録として澤柳博士外四氏の追想録並に故博士の畧歴が載せてある。菊版四二七頁、定價三圓八拾錢、東京市牛込山伏町イデア書院發行（高橋俊乗）

東洋倫理思想概論

文學士 岩橋 遵成著

清人皮錫瑞氏の經學歴史は夙に小島助教の點を附して翻譯され、新會梁啓超氏の清代學術概論は二種の邦譯をさへ出すに至つた。北京大學叢書の一、胡適氏の名著中國哲學史大綱上卷出て茲に五年版を重ねること既に八回、吾人の寡聞なる未だ之が詳細なる紹介をだに耳にしない。該書は中古近世の二卷（合して一冊とす）を缺くが故に未だ完備しないけれども胡適の惠まれたる才子肌の天分と、現代支那人に珍しい犀利なる論法と、支那新人として稀有なる考證學的素養と勿論そこに幾多の粗漏ありとするものとを以てヴァインデルバント其他の哲學史論、史料審定及び整理之法、西洋校勘學等を消化して、蔡元培が所謂證明的方法、扼要的方法、平等的眼光及系統的研究の長所を遺憾なく發揮したもので現代の吾人が有する支那哲學史中最も特色あるものの一である。今岩橋文學士の本書を見るに體系は主として學士の舊著東洋倫理に本づいて居るがその論旨に於ては初の七分の五迄は最も多く胡適の該書に據つたと思はれる。従つて本書の價值は主として胡適氏に依存し、その評價すべき要點は如何に之を利用したかといふにある。序文に「免（免？）固冊子」とあり「成るべくその叙述を平

明にした」とある通り一般の初學者を對手としたもので啓蒙的の著述としては良書といつて然るべきだらうと思ふ。従て胡適の著述に特筆され更に梁啓超の墨子學案に於て最も重要視されたる墨子論理學にさまで注意しなかつたり、易などの深遠な理論を排除したり、代表的の學者以外を揚げなかつたりしてゐるのも啓蒙を主としてゐる以上當然の結果と見られる。但し胡適に従つて孔子の正名主義の影響を墨子の名學や楊朱の名實論に迄及ぼさうとするが如き果して直に首肯し得べきであらうかどうか更に些細なこゝさではあるが五雜俎を誤刷して五雜組となしたるが如き、冤囹冊を免囹冊と、殷を段と、謝肇淵を謝肇制と、荀子を孟子と、誤りたるが如き尤も中には根據あつてしかく書かれたるものもあるかも知れないが固有名詞や故事などの誤は正誤表を附する丈の初學者に對する親切が望ましいと思ふ。百頁に「自ら反さうして縮からずんば……自ら反さうして縮ければ」とあるが何と讀ますのであらう。さもあれ啓蒙書としては色々の意味で良書と思ふから一般に廣く愛讀されて一には胡適氏の犀利なる觀察二には著者編述の苦心の十分に報いられんことを切望して止まない。妄評多謝（東京集鴨三の一七、天地書房、菊判三五九頁、三四五十錢）
—（加藤仁平）

日本倫理思想の系統

文學博士 補永 茂助著

著者は日本道德を我が文明の眞髓と見、日本に立派な倫理思想の系統あることを明にし、以て國民的自覺を促し、之を世界に提